

みなとみらい21エリアマネジメント活動助成金 配布用活動実績報告書

平成23年6月10日

1 グループ名

帆船日本丸記念財団・JTB法人東京共同事業体
(帆船日本丸・横浜みなと博物館)

2 提案名

第2回「横浜の帆船日本丸」募集写真展

3 助成を受けて行った活動の時期及び内容

平成22年12月18日(土)～平成23年1月30日(日)

「横浜の帆船日本丸」をテーマに写真を広く募集し、応募作品を横浜みなと博物館で展示。応募作品のなかから17点、賞の授与を行った。受賞作品については、絵ハガキやカレンダーなど当施設の印刷物やホームページなどで活用。

4 助成金を受けて行った活動の成果

募集期間 平成22年7月1日～10月11日

応募総数 131点(うち横浜市内65%)

展示期間 平成22年12月18日～平成23年1月30日

表彰式 12月18日実施。入賞者15人が出席。

展示期間中の総入場者数 25470人

昨年第1回を開催し2回目となるが、審査員が迷うほど力作が集まった。オリジナリティがある作品に応募しようと何度も撮影に来た方もいた。

第2回目は入館料を無料にしたこともあり、期間中の横浜みなと博物館入館者数25470人(21年度の写真展入館者数17609人)となり、みなとみらいの賑わいにも一役買うことができたのではないかと思います。

受賞作品の一部は、こども用リーフレットに新しく掲載し、上位3作品は絵葉書を作成し、当共同事業体の催しに参加してくださった方に配布を実施している。入賞作品については2012年のカレンダーに採用し、ほかにもグッズや印刷物などに活用していく計画がある。

今回、初の試みとしてパシフィコ横浜開催の写真総合イベントCP+との連動により写真関連ワークショップの親子参加の「ピンホールカメラ教室」や写真関連企業の協力により一般向けの「フィルムカメラ教室」を開催した。どちらもカメラの原点を楽しみながら知ることができ、参加者もカメラや写真に興味を持てた。また作品を博物館内に展示するこ

とで、作品を発表する喜びを感じるとともに、さらにみなとみらいに足を運ぶ機会が増えた。

受賞作品は、交流事業の一環として国営アルプスあづみの公園（長野県安曇野市・大町市）で5月に展示を実施した。

5 エリアマネジメントにおける効果

見学者からは、「子どもたちや横浜市民に見て欲しい」「日本丸や横浜港の歴史を知ることができた」との感想をいただき、新たな日本丸、そしてみなとみらいの魅力を発見していただけたと思う。また応募全作品を展示したことにより、応募者本人はもとより家族や写真クラブの仲間など友人たちが見学に来るケースも多かった。

会場内のアンケートで応募者の73%が満足、またはやや満足と回答し、次回は出品したいと半数近くの方から要望があった。

6 今後の活動展望

今後の課題として、どのように応募の増加を図り継続していくかが考えられる。応募された方の多くは、60代・70代が目立つ。新たな参加者の呼びかけとして第3回募集では、大学のカメラサークルに応募を呼びかけている。また、第1回・2回と実施してきたのでリピーターを増加させるとともに催しを定着させていきたい。

第2回では、写真関連の協力団体のアイディアによりワークショップ（ピンホールカメラ教室）を開催することにより、新たな参加者を誘致できた。第3回も新しい企画を実施していくことで、リピーターや新しいファン作りをしていきたい。



募集写真展開催の特別展示室

帆船日本丸会長賞
「日本丸の夏」川崎 洋